

報告

あなたの声を聴かせてください： 大学教員が聴くコロナ禍で高校生の留学を憂う保護者の声 (教育連携部会傾聴会議報告)

奥山則和^A

2020年11月7日(土)の15時から17時まで、オンラインで標題の企画が開催された。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、教育連携部会は2020年夏に2回、同様の会議を実施した¹⁾³⁾。以上の会議の振り返りの際、部会員の大学教員から、高校の保護者の声を聞きたいという意見があり、今回の開催となった。大学と異なり、高校以下の教員は保護者との連絡は常日頃から行っていることである。このような会議の開催は、学校間の連携を推進する上で意義があることに思われた。

発言者の概要は以下の通り。

Aさん：完全中高一貫¹⁾男子進学校1年生の保護者
トビタテ!²⁾申請も募集自体が中止に

Bさん：高入生がある中高一貫進学校2年の保護者
中学時短期留学、昨年度末の海外研修が中止に

Cさん：高入生・大学附属校2年の保護者
多彩な留学機会を求め同校進学も留学断念

Iさん：教育連携部会員・私立校1年担任

SSH³⁾認定・国際クラスもあり海外研修機会多し
会議の流れとしては、まずは上の保護者が2分を目処に自身の状況を紹介した。次にブレイクアウトセッションを約40分実施し、保護者だけが司会者と話し合う時間を設けた。これは、関係者がいない場を作ることで忌憚のない発言を促すためである。その間、参加者の教員は教員で同セッションを行い、情報交換の場にしていただいた。セッション後、司会者のフィードバックに続いて、部会員のI氏が勤務校の保護者の様子について語ってくださった。

総合司会は、教育連携部会副部会長の高城宏行氏に担っていただいた。またブレイクアウトセッションでは、中高での勤務経験がある仲谷ちはる氏にもサポー

トに入っていた。

当初15分の予定であったブレイクアウトセッションは、保護者たちが意見をたくさん述べてくださり、結局40分程度実施することになった。そこから得られたフィードバックは以下の通りである。

- ・大前提として、コロナ禍を受けて学校が留学や海外語学研修を中止するのは致し方ない。
- ・しかし、留学機会があるからこそ選んだ高校に進学しても機会がなくなり、あるいは苦労して申請したトビタテ!の合否もわからないままなのは、残念。
- ・学校が海外研修を控えるのは理解するが、国単位で渡航を許可するところも出てきた場合は、子どもが望むのであれば保護者の判断で行かせたい。そのためにも、情報提供はしてほしい。
- ・高校のメインターゲットは海外語学研修。海外経験が豊富な生徒を対象としたプログラムの情報提供が欲しい。
- ・大学側には、海外経験がある学生に対して「次のステップ(英語で専門を学ぶなど)」に行けるような高度で専門的な機会を提供して欲しい。またそういうプログラムがある大学を進学先として考えたい。
- ・ただ単に留学するというだけではなく、発達段階に合った留学を考えている。高校で行けなかったから大学で取り返す、というものではない。心が柔らかい高校生のうちに海外を体験させるということができなくなった。

司会の高城氏がいくら促そうと、3名の保護者から学校に対するネガティブな声は聞かれなかったようだ。

一方、Iさんの報告からは別の面が見えてきた。なお、同氏が勤める学校は公立校が強い中京地区にある、私立校だ。同校が提供する多様な海外との交流機会を期待して入学された生徒が多いのが特徴である。彼の報告は次の通り。

A: 桐蔭学園グローバル教育センター
グローバル人材育成教育学会・教育連携部会長

- ・「コロナだから仕方ない」という前置きはありつつも、多くの不満が学校に対して向けられた。
- ・海外との交流が盛んで、県内でも出願者が多い学校だからこそ、交流が全て止まってしまった学校に入ったことを後悔しているご家庭が多数あった。
- ・オンラインで海外の提携校と研究発表会を実施しても、納得してくださる方が少なかった。逆に実際の交流を求める保護者が多かった。
- ・海外研修を売りにしていた大学は、同校の生徒から人気が高かったが、そのような大学への進学希望者は1人になってしまった。特に女子生徒は保護者からのネガティブな意見に影響を受けているようだ。
- ・学級の2割以上の生徒が退学や進路変更を検討しているようだ。

質疑応答では、オンライン授業のセキュリティーに対する懸念があるのでは、という意見があった。それに対し保護者は、現地での交流に価値を見出しているようであった。空気感を感じる、ワクワク感があるといった言葉があった。その分、あえてオンラインのみで留学をする気持ちすらないようであった。それよりも、国内でできる代替案の方がいいという意見があった。

また、参加者からは、そもそも日本の住宅事情が在宅で学習や仕事をする事に向いていない、セキュリティー以前の問題があるという問題提起があった。一方、オンライン交流が海外への馴化としては有効であるという実践検証結果があるという意見もあった⁴⁾。

最後に3名の保護者から感想を伺った。

Aさんは、中高一貫校と高校だけの学校の違いもあるかもしれないが、Iさんの置かれた厳しい状況に心を痛めている様子であった。お子さまの通う学校は国内でできる代替案を発表したばかりで、先生方の尽力には感謝しているとのことだった。

Bさんは、お子さまの高校在学中の留学機会は現実的にはなくなった分、大学進学後は視野を広げさせたとは思っているものの、今後の状況が見通せないということだった。だからこそ、批判的だったオンラインサービスを含め、色々とチャレンジをしていかなければと力説された。

Cさんはご家庭の誰も海外経験がない中、お子さまには早い年齢でチャレンジさせたいとは思っていたものの、見通しは明るくないと仰った。それならば、バーチャルでも海外との交流経験を積み、いざ海外へい

ける時に向けて準備させたいということであった。

締め挨拶は、常任理事のクマール名城大学教授にお願いした。教育機関としてのコロナ対応の難しさ、またご自身が勤めるのが外国語学部というところからくる苦しさも吐露された。しかし、コロナ収束後もグローバル化は進むという前提に立ち、若者たちをその世界へ向けて準備させることは続けるためにも、建設的な意見はいつでも歓迎したいと述べられた。

少数ではあったが、保護者から直接意見を伺える貴重な機会となった。中高一貫校に通う保護者と高校から入学された保護者とで若干意見に違いがあったりしたことは、こういう場だからこそ得られた気づきだ。また参加者からも、保護者の方から学校選びにどれだけ労力を費やしているかを聴くことは、大学にいると見えない部分なのでよかったという意見が出た。

オンラインでの情報収集を目的とした会議は、今回で終了にする予定だ。3回の会議に携わった全ての方に感謝したい。今後は、学校間を超えた生徒・学生・社会人の交流の場を創るよう努めていきたい。

注 (ウェブサイトの閲覧日は2021年1月5日)

- [1] 完全中高一貫校とは、高校からの入学生(高入生)がいない一貫校のこと。
- [2] トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム【高校生コース】が正式名称の官民協働の留学支援キャンペーン。2020年度分は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、採用手続きの途中で中止となった。<https://tobitate.mext.go.jp/news/detail.html?id=208>
- [3] Super Science High schools の略。文部科学省の指定を受けた学校が先進的な理数教育を実施しつつ、高大接続の在り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取組などを推進している。<https://www.jst.go.jp/cpse/ssh/>
- [4] 玉川大学・高城宏行准教授の発言。詳細は、今後の研究発表に期待したい。

引用・参考文献 (ウェブの閲覧日は2021年1月5日)

- 1) 奥山則和.(2020). コロナ禍で変わるグローバル教育: 何が起きて、これからどうなるか? (教育連携部会緊急会議報告). 『グローバル人材育成研究』第8巻1号 http://www.j-agce.org/wp-content/uploads/2013/09/201001JAGCE_Journal_8-1.pdf
- 2) 奥山則和.(2020). 私たちはコロナに負けない: コロナ禍で留学機会を逸した若者が切り開く未来 (教育連携部会未来会議). 前掲書.
- 3) 上野創・斉藤純江.(2020). コロナで留学が中止に・・・若者と教員が意見交換「もっと相談先や交流の機会を」. 朝日新聞 EduA ウェブ版 <https://www.asahi.com/edua/article/13725973>
受付日 2021年1月6日、受理日 2021年3月13日